

## 資治通鑑 第190卷

【唐紀六】 起玄默敦牂，盡闕逢涪灘五月，凡二年有奇。

■唐、**突厥**突厥、統国訳漢文大成 経子史部 第11卷 101p

### 高祖神堯大聖光孝皇帝中之下武德五年（壬午，622年）

#### 【劉黑闥勢力は河北を席卷】

■ **劉黑闥は漢東王を自稱、竇建徳を師とす** 春，正月，劉黑闥は漢東王を自稱し，改元して天造とし，都を洺州（現・邯鄲市曲周県）に定める。范願を以て左僕射と為し，董康買を兵部尚書と為し，高雅賢を右領軍と為す。王琮を征して中書令と為し，劉斌を中書侍郎と為す。竇建徳の時の文武は悉く本位に復す。其の法を設け政を行うは，悉く建徳を師とし，而して攻戦の勇決は之に過ぐ。

■ 丙戌（22-19+1=4日），同安の賊帥の**殷恭遂**は舒州（隋の同安郡、現・安徽省安慶市桐城市）を以て來降す。

■ 丁亥（23-19+1=5日），濟州（隋の時、盧県に治す、現・山東省聊城市東阿県）の別駕の**劉伯通**は刺史の**竇務本**を執り，州を以て**徐圓朗**に附く。

■ 庚寅（26-19+1=8日），東鹽州（滄州鹽山県は本は漢の高成県の地。去年に東鹽州を置き、清池県を以て之に隸す、現・河北省滄州市鹽山県）の治中の**王才藝**は刺史の**田華**（621-622在任）を殺し，城を以て**劉黑闥**に應じる。

■ **李世民は相州を取る** 秦王の世民の軍は獲嘉（隋の開皇四年に獲嘉県を修武の故城に移す、現・河南省新郷市獲嘉県）に至り，**劉黑闥**は相州（現・河南省安陽市安陽県）を棄て，退きて洺州（春秋の晋の曲梁の地、直隸省大名道永年県、現・邯鄲市永年区）を保つ。丙申（32-19+1=14日），世民は復た相州を取り，（11-102p）進みて肥郷（漢の魏郡の邯溝県の地、直隸省大名道肥郷県、現・邯鄲市肥郷区）に軍し，營を洺水（東して曲梁城を經る。曲梁は永年。洺州の治所）之上に列し以て之に逼る。

#### 【江南・嶺南の情勢】

■ **林士弘は蕭銑の兵を吸収** 蕭銑は既に敗れ，散兵は多く**林士弘**（張善安に敗れて兵勢衰えるは184卷隋の義寧元年にあり）に歸し，軍勢は復た振う。

■ **嶺南の楊世略は來降** 己酉（45-19+1=27日），嶺南の俚帥の**楊世略**は循（龍川郡、広東省潮循道惠陽県、現・惠州市惠陽区）、潮（義安郡、現・広東省潮州市潮安区）二州を以て來降す。

■ **王義童は泉陸建三州を下す** 唐の使者の**王義童**は泉（隋は泉州を建安郡に置く。福建省廈門道晉江県、現・泉州市晉江市）、陸（遂安郡、漢の富春歙県の地、浙江省金華道建徳県、現・杭州市建徳市）、建（武徳四年に建安郡の建安県を以ておく、福建省建安道建甌県、現・南平市建甌市）の三州を下す。

#### 【李世民的劉黑闥討伐軍】

■ **劉黑闥は李世民・李藝に破れる** 幽州總管の**李藝**は所部の兵數萬を將いて秦王の世民に會して**劉黑闥**を討たんとし，**黑闥**は之を聞き，兵萬人を留め，范願をして洺州を守らせめ，自ら兵を將いて**藝**を拒む。夜，沙河（直隸省大名道沙河県。沙河は〔洺〕水、趙郡襄國県西山より出て、東して沙河県を過ぎる）に宿し，**程名振**は鼓六十具を載せ，城西二里の堤の上に於いて急に之を撃ち，城中の地は皆な震動す。范願は驚懼し，馳せて**黑闥**に告げる。**黑闥**は遽に還り，其の弟の**十善**を遣わして行台の**張君立**と兵一萬を將いて**藝**を鼓城（唐は趙州に属す。直隸省保定道晉県、現・石家莊市晋州市）に撃たしむ。壬子（48-19+1=30日），徐河に戦い，**十善**、**君立**は

大敗し、失亡する所は八千人。

■ **[洛水攻防戦]** 洛水（洛水県は旧は斥漳という。北齊は葉布石で平恩に入る。開皇六年に分けて曲周を置く。大業の初め、曲周を廢して洛水に入る、直隸省大名道曲周県の東南、現・邯鄲市曲周県）人の**李去惑**は城に據りて來降し、秦王の**世民**は彭公の**王君廓**を遣わして千五百騎を將いて之に赴かしめ、城に入りて共に守らしむ。二月、**劉黑闥**は兵を引いて還りて洛水を攻め、癸亥（59-49+1=11日）、行きて列人（漢の廣平國に属す。洺州に在り。直隸省大名道肥郷県の東北十五里、現・邯鄲市肥郷区）に至り、秦王の**世民**は**秦叔寶**をして邀撃せ使めて之を破る。

■ **[豫章の張善安の來降]** 豫章の賊帥の**張善安**は虔（南康郡、現・贛州市南康区）、吉（盧陵郡、現・吉安市吉水県）等五州を以て來降し、洪州（豫章郡）總管に拜す。

■ **[金郷の陽孝誠の來降]** 戊辰（4+60-49+1=16日）、金郷（山東省濟寧道金郷県、武徳四年に金州を置く。この年州を廢し縣を以て戴州に属す、現・濟寧市金郷県）人の**陽孝誠**は**徐圓朗**に叛し、城を以て來降す。

■ **[并州の馮伯讓の來降]** 己巳（5+60-49+1=17日）、秦王の**世民**は復た邢州（現・河南省邢台市襄都区）を取る。辛未（7+60-49+1=19日）、并州（隋の開皇十六年に恒州并陘縣を以て并州を置く。大業の初め、廢す。武徳元年に復た置く）人の**馮伯讓**は城を以て來降す。

■ **[李藝は世民と洺州に會す]** 丙子（12+60-49+1=24日）、**李藝**は**劉黑闥**の定（現・河北省保定市高陽県）、**欒**（隋の開皇十六年に趙州廣阿県を分けて置く、現・河北省邢台市隆堯県）、**廉**（武徳元年に恒州藁城縣を分けて置く、現・河北省石家莊市藁城區）、**趙**（現・河北省石家莊市高邑県）四州を取り、**黑闥**の尚書の**劉希道**を獲り、兵を引いて秦王の**世民**と洺州に會す。

■ **[劉黑闥は洛水の羅士信を殺す]** **劉黑闥**は洛水を攻めること甚だ急なり。城の四旁は皆な水有り、廣さは五十餘歩、**黑闥**は城の東北に於いて二甬道（垣を築いた道）を築き以て之を攻める。**世民**は三たび兵を引いて之を救う、**黑闥**は之を拒み、進むを得ず。**世民**は**王君廓**が守る能わざるを恐れ、諸將を召して之を謀り、**李世勣**は曰く、

「若し甬道が城下に達すれば、城は必ず守られず。」

行軍總管の郟勇公の**羅士信**は**君廓**に代りて之を守らんと請う。**世民**は乃ち城の西南の高塚に登り、旗を以て**君廓**を招き、**君廓**は其の徒を帥いて力戦し、圍みを潰し而して出でる。**士信**は左右二百人を帥いて之に乗りて入城し、**君廓**に代りて固守す。(11-103p) **黑闥**は晝夜急に攻め、大雪に會い、救兵は往くを得ず、凡そ八日、丁丑（13+60-49+1=25日）、城は陥る。**黑闥**は素より其の勇を聞き、之を生かさんと欲し、**士信**の詞色は屈せず、乃ち之を殺す、時に年二十なり。

■ 戊寅（14+60-49+1=26日）、汴州（現・河南省開封市祥符區）總管の**王要漢**は**徐圓朗**を杞州（現・河南省安陽市滑縣）に攻め、之を抜き、其の將の**周文舉**を獲る。

■ **[突厥]** **[突厥の支援で梁師都を攻めきらず]** 庚辰（16+60-49+1=28日）、延州（漢の上郡の膚施の地、元氏の魏の末に東夏州を置き、西魏は改めて延州といい、隋は延安郡という）道の行軍總管の**段德操**は**梁師都**の石堡城を撃ち、**師都**は自ら將いて之を救う。**德操**は與に戦い、大いに之を破り、**師都**は十六騎を以て遁げ去る。上は其の兵を益し、勝ちに乗りて夏州に進攻せ使め、其の東城に克ち、**師都**は數百人を以て西城を保つ。會々突厥の救いは至り、**德操**に詔して引き還らしむ。

■ **[高雅賢の戦死]** 辛巳（17+60-49+1=29日）、秦王の**世民**は洛水を抜く。三月、**世民**は**李藝**と洛水之南に營し、兵を分けて水北に屯す。**黑闥**は數々挑戦し、**世民**は壁を堅くして應じず、別に奇兵を遣わして其の糧道を絶つ。壬辰（28-18+1=11日）、**黑闥**は**高雅賢**を以て左僕射と為し、軍中に高會す。**李世勣**は兵

を引いて其の營に逼り、**雅賢**は酔いに乗りて、單騎にして之を逐い、**世勣**の部將の**潘毛**は之を刺して馬より墜す。左右は繼いで至り、扶け歸り、未だ營に至らず而して卒す。甲午(30-18+1=13日)、諸將は復た往きて其の營に逼り、**潘毛**は**王小胡**の擒とする所と為る。**黑闥**は糧を冀、貝、滄、瀛の諸州に運び、水陸は俱に進み、**程名振**は千餘人を以て之を邀え、其の舟を沈め、其の車を焚く。

■ **[刺史の李義滿の獄中死]** 宋州總管の**盛彥師**は齊州總管の**王薄**を帥いて須昌を攻め、軍糧を潭州(譚州に作るべし。潭州は長沙など。武徳二年に李義滿は齊州の章丘県を以て来降。平陵に譚州を置き、併せて平陵県を置く。山東省済南道歴城県の東南75里、章丘は現・済南市章丘区)に征す。刺史の**李義滿**は**薄**と隙有り、倉を閉じて與えず。須昌の降るに及び、**彥師**は**義滿**を收め、齊州の獄に系ぎ、詔して之を釋す。使者は未だ至らざるに、**義滿**は憂憤して、獄中に死す。**薄**は還り、潭州を過ぎ、戊戌(34-18+1=17日)の夜、**義滿**の兄の子の**武意**は**薄**を執り、之を殺す。**彥師**も亦た坐して死す。(朝廷は義滿の死せるを以て彥師の罪と為して之を殺す)

■ **[突厥]** **[突厥と唐の再修交]** 上は遣使して突厥の**頡利可汗**に賂し、且つ結婚を許す。**頡利**は乃ち漢陽公の**瑰**、**鄭元璠**、**長孫順徳**等(前卷四年に留められる)を遣わして還し、庚子(36-18+1=19日)、復た遣使して來たりて修好し、上も亦た其の使者の**特勒熱寒**、**阿史那徳**等を遣わして還らしむ。并州總管の**劉世讓**は雁門に屯し、**頡利**は**高開道**、**苑君璋**と衆を合わせて之を攻め、月餘にして、乃ち退く。

■ **[交州を置く]** 甲辰(40-18+1=23日)、隋の交趾太守の**丘和**を以て交州(交趾郡を交州と為す)總管と為す。**和**は司馬の**高士廉**を遣わして奉表して入朝を請い、詔して之を許し、其の子の**師利**(義師の長安に向かう時に丘師利は兵を以て來たり附く)を遣わして之を迎えしむ。

### 【李世民は劉黑闥を破り山東平定】

■ **[世民は決戦で劉黑闥を撃破]** 秦王の**世民**は**劉黑闥**と相い持つこと六十餘日なり。**黑闥**は師を潜めて**李世勣**の營を襲い、(11-104p) **世民**は兵を引いて其の後を掩い以て之を救い、**黑闥**の圍む所と為る。**尉遲敬徳**は壯士を帥いて圍みを犯して而して入り、**世民**は略陽公の**道宗**と之に乗りて出ざるを得る。**道宗**は、帝之從子也。**世民**は**黑闥**の糧の盡き、必ず來たりて決戦せんとするを度り、乃ち人をして洺水の上流を堰か使め、守吏に謂って曰く、

「我と賊と戦うを待ち、乃ち之を決(決壊)せよ。」

丁未(43-18+1=26日)、**黑闥**は步騎二萬を帥いて南に洺水を度り、唐の營を壓し而して陳す。**世民**は自ら精騎を將いて其の騎兵を撃ち、之を破り、勝ちに乗りて其の歩兵を蹂る。**黑闥**は衆を帥いて殊死して戦い、午より昏に至り、戦うこと數合、**黑闥**の勢いは支える能わず。**王小胡**は**黑闥**に謂って曰く、

「智力は盡きたり矣、宜しく早く亡げ去るべし。」

遂に**黑闥**と先ず遁げ、餘衆は知らず、猶ほ格戦す。守吏は堰を決し、洺水は大いに至り、深さは丈餘、**黑闥**の衆は大いに潰え、斬首は萬餘級、溺死は數千人、**黑闥**は**范願**等二百騎と突厥に奔り、山東は悉く平らぐ。

■ **高開道**は易州を寇し、刺史の**慕容孝幹**を殺す。

■ **[交州ベトナムまで通じる]** 夏、四月、己未(55-48+1=8日)、隋の鴻臚卿の**寧長真**は寧越(欽州、漢の合浦県、宋は宋壽・宋廣郡と為す)、鬱林(鬱州、漢の古郡)之地を以て降を**李靖**に請い、交(交州から京師まで7523里)、愛之道(愛州は九眞郡、漢の古都、ベトナム北部、京師まで8800里)は始めて通じる。**長真**を以て欽州總管と為す。

■ **夔州總管**の**趙郡王の孝恭**を以て荊州總管と為す。

■ **[徐圓朗は動揺して劉世徹を誅殺]** 徐圓朗は劉黑闥の敗れるを聞き、大いに懼れ、出ざる所を知らず。河間の人劉復禮は圓朗を説いて曰く、

「劉世徹なる者有り、其の人の才略は不世出にして、名は東夏に高し、且つ非常之相有り、真に帝王之器なり。將軍が若し自立すれば、恐らくは終に成る無し。若し世徹を迎え而して之を奉ずれば、天下指揮して定める可し。」

圓朗は之を然りとし、復禮をして世徹を浚儀（漢・晋・北魏は陳留郡に属す、北周・隋・唐は汴州の治所、現・開封市祥符区）に迎え使む。或は圓朗に説いて曰く、

「將軍は人の惑わす所と為り、劉世徹を迎え而して之を奉じんと欲し、世徹が若し志を得れば、將軍は豈に地を全くす有り乎！僕は敢えて遠く前古を引かず、將軍は獨り翟讓之李密に於ける（183 卷隋の大業十二年にあり）を見ざる乎？」

圓朗は復た以て然りと為す。世徹は至り、已に衆數千人有り、城外に頓し、以て圓朗の出で迎えるを待つ。圓朗は出でず、人をして之を召さしむ。世徹は事の變ずるを知り、亡げ走らんと欲するも、免かれざるを恐れ、乃ち入りて謁す。圓朗は悉く其の兵を奪い、以て司馬と為し、譙、杞二州に徇え使む。東人は素より其の名を聞き、向かう所皆な下り、圓朗は遂に之を殺す。

■ **[李淵は李世民を長安に召す]** 秦王の世民は河北より兵を引いて將に圓朗を撃たんとし、會々上は之を召し、傳を馳せて入朝せ使め、乃ち兵を以て齊王の元吉に屬す。庚申（56-48+1=9日）、世民は長安に至り、上は之を長樂（長樂坂は長安の東）に迎える。世民は具に圓朗を取るの形勢を陳じ、上は復た之を遣わして黎陽に詣り、大軍に會して濟陰（曹州治所、現・山東省菏泽市定陶区）に趨く。

■ 丁卯（3+60-48+1=16日）、山東の行台を廢す。（劉黑闥の敗北による）

■ **[突厥 [代州總管の李大恩は突厥に殺される]** 壬申（8+60-48+1=21日）、代州總管の定襄王の李大恩は突厥の殺す所と為る。是より先、大恩は奏して稱す、

「突厥は饑饉す、馬邑は取る可し」

と、殿内少監の獨孤晟に詔して兵を將いて大恩と共に苑郡璋を撃たしめ、期するに二月を以て馬邑に會さしむ。期を失いて至らず、大恩は獨り進む能わず、兵を新城（朔州の南）に頓す。頡利可汗は數萬騎を遣わして劉黑闥と共に大恩を圍み、上は右驍衛大將軍の李高遷を遣わして之を救わしむ。未だ至らず、大恩の糧は盡き、夜遁げ、突厥は之を邀え、衆は潰え而して死し、上は之を惜しむ。獨孤晟は坐して死を減じて邊に徙される。

■ 丙子（12+60-48+1=25日）、行台民部尚書の史萬寶は徐圓朗を陳州（春秋の陳の國都、隋は陳衆を置き、宛丘に治す、河南省開封道淮陽県、現・周口市淮陽区）に攻め、之を抜く。

■ **[南方の太守來降]** 戊寅（14+60-48+1=27日）、廣州の賊帥の鄧文進は、隋の合浦（越州、貞觀に廉州に改める、現・広西壯族自治區北海市合浦県）太守の寧宣、日南（徳州、貞觀に驩州に改める、現・ベトナムゲアン省又安南部・ハティン省河静一帯）太守の李暎と並びて來降す。

■ **[瓜州は平らぐ]** 五月、庚寅（26-17+1=10日）、瓜州（晋昌郡。この年瓜州の常樂県を分けて置き、旧瓜州は西沙州とす、現・甘肅省酒泉市瓜州県）の土豪の王幹は賀拔行威（反する事 188 卷前年にあり）を斬り以て降り、瓜州は平らぐ。

## 【突厥・劉黑闥との戦い】

■**突厥**突厥は忻州（新興郡。義寧元年に樓煩郡秀容県を以て置く。山西省雁門道忻県、現・忻州市西北）を寇し、**李高遷**は撃ちて之を破る。

■**突厥** **[劉黑闥は突厥と山東を寇す]** 六月，辛亥（47-47+1=1日），**劉黑闥**は突厥を引いて山東を寇し、燕郡王の**李藝**に詔して之を撃たしむ。

■**吐谷渾**癸丑（49-47+1=3日），吐谷渾は洮（北周の武帝は吐谷渾を追いて、臨洮に置く、現・甘南チベット族自治州臨潭県）、旭（洮源に置く）、豊（豊川に置く、現・甘南チベット族自治州臨潭県）三州を寇し、岷州（甘肅省蘭山道岷県、現・隴南市宕昌県）總管の**李長卿**は撃ちて之を破る。

■乙卯（51-47+1=5日），淮安王の**神通**を遣わして**徐圓朗**を撃たしむ。

■**突厥**丁卯（3+60-47+1=17日），**劉黑闥**は突厥を引いて定州を寇す。

■ **[世民は徐圓朗を撃ち杜伏威は入朝へ]** 秋，七月，甲申（20-16+1=5日），秦王の**世民**の為に弘義宮（後に改めて大安宮と為す、宮城鎧の西偏にあり）を營み、之に居ら使む。**世民**は**徐圓朗**を撃ち、十餘城を下し、聲は淮、泗に震い、**杜伏威**は懼れ、入朝せんと請う。**世民**は淮、濟之間の略ぼ定まるを以て、淮安王の**神通**、行軍總管の**任瑰**、**李世勣**をして**圓朗**を攻め使む。乙酉（21-16+1=6日），師を班す。

■ **[李子通の誅殺]** 丁亥（23-16+1=8日），**杜伏威**は入朝し、延きて御榻に升らせ、太子の太保に拜し、仍は行台尚書令を兼ね、長安に留まらしめ、位は齊王の**元吉**の上に在り、以て之を寵異す。**闕稜**を以て左領軍將軍（魏の武帝は丞相と為り始めて中領軍を置く。北齊は領軍府を置く。煬帝は改めて禦衛と為す。唐は改めて領軍衛と為す）と為す。**李子通**は**樂伯通**に謂って曰く、

「**伏威**は既に來たり、江東は未だ定まらず、我は往きて舊兵を取めれば、以て大功を立てる可し。」遂に相い與に亡げて**藍田關**（陝西省關中道藍田県、現・西安市藍田県）に至り、吏の獲る所と為り、俱に伏して誅せらる。

■ **[劉黑闥は定州に至る]** **劉黑闥**は定州に至り、其の故將の**曹湛**、**董康買**は亡命して鮮虞（旧は盧奴県という、開皇の初め名を更む。其の地は春秋の鮮虞子の國なるを以てなり、定州の治所。現・河北省保定市定州市）に在り、復た兵を聚めて之に應じる。（11-106p）甲午（30-16+1=15日），淮陽王の**道玄**を以て河北道行軍總管と為し以て之を討たしむ。

■丙申（32-16+1=17日），遷州（西魏は房陵を以て遷州を置く。大業の初め改めて房州という。武徳の初めに復た遷州という。湖北省襄陽道房県、現・十堰市房県）の人の**鄧士政**は刺史の**李敬昂**を執り以て反す。

■ **[馮盎は來降し嶺南は悉く平らぐ]** 丁酉（33-16+1=18日），隋の漢陽太守の**馮盎**は**李靖**の檄を承け、所部を帥いて來降し、其の地を以て高（高涼郡、現・広東省陽江市陽春市）、羅（石城郡）、春（陽春郡、現・広東省陽江市陽春市）、白（南昌郡、現・江西省南昌市南昌県）、崖（珠崖郡）、儋（儋州は海外に在り、儋耳を以て名付ける）、林（桂林郡、現・広西壮族自治区来賓市象州県）、振（臨振郡）の八州と為し、**盎**を以て高州總管と為し、耿國公に封じる。是より先、或は**盎**を説いて曰く、

「唐は始めて中原を定め、未だ遠くに及ぶ能わず、公の領する所の二十餘州の地は、已に**趙佗**（漢紀に見える）よりも廣し、宜しく南越王を自稱すべし。」

**盎**は曰く、

「吾が家は此に居ること五世なり矣（馮氏が高涼に居る事初めて163卷梁の簡文帝大寶元年にあり）、牧伯と為る者は吾が門を出でず、富貴は極まる矣。常に懼れる負荷するに克たず、先人の羞を為す、敢えて**趙佗**に效いて自ら一方に王ならん乎！」

遂に來降す。是に於いて嶺南は悉く平らぐ。

■八月，辛亥（47-46+1=2日），洛、荆、交、并、幽の五州を以て大總管府と為す。

●隋の煬帝を揚州の雷塘（江蘇省淮揚道江都県の北にあり、現・南京市六合区）に改葬す。

■吐谷渾甲寅（甲戌×、50-46+1=5日），吐谷渾は岷州を寇し，總管の李長卿を敗る。益州行台の右僕射の竇軌、渭州刺史の且洛生に詔して之を救わしむ。

■突厥〔唐は総力で突厥を迎撃〕乙卯（51-46+1=6日），突厥の頡利可汗は邊を寇し，左武衛將軍の段德操、雲州（榆林は元雲州に属す）總管の李子和（武徳三年に榆林郡を以て降る）を遣わして兵を將いて之を拒ましむ。子和の本姓は郭，劉黑闥を討ちて功有るを以て，姓を賜る。丙辰（52-46+1=7日），頡利の十五萬騎は雁門に入り，己未（55-46+1=10日），并州を寇し，別に兵を遣わして原州を寇す。庚申（56-46+1=11日），太子に命じて幽州（幽州のとすべし、現・陝西省咸陽市北部）道に出で，秦王の世民をして秦州（秦州に作るべし、秦州に出でて并州の寇を禦ぐ。秦州は時に龍門に治す）道に出で、以て之を御がしむ。李子和は雲中（漢の雲中の故城は榆林郡の東北四十里のあり）に趨き，可汗を掩撃し，段德操は夏州に趨き，其の歸路を邀える。

■〔突厥と和戦いずれが利か〕辛酉（57-46+1=12日），上は群臣に謂って曰く、

「突厥は入寇し而るに復た和を求める，和と戦うと孰れか利あるや？」

太常卿の鄭元璿は曰く、

「戦えば則ち怨は深し，和の利に如かず。」

中書令の封德彝は曰く、

「突厥は犬羊之衆を恃み，中國を輕んじる之意有り，若し戦わず而して和すれば，之に示すに弱きを以てし，明年將に復た來たらんとす。臣愚は以為うに之を撃つに如かず，既に勝ちて而る後に與に和せば，則ち恩威は兼ね著われん矣。」

上は之に従う。

■己巳（5+60-46+1=20日），并州大總管の襄邑の王神符は突厥を汾東に破る。汾州（浩州は西河郡、武徳三年に更めて汾州とす）刺史の蕭顛は突厥を破り，斬首は五千餘級。

■吐谷渾吐谷渾は洮州を陥し，武州（武都郡に西魏は武州を置く。唐は後に階州と改める。甘肅省渭川道武都県西南、現・隴南市武都区）刺史の賀拔亮を遣わして之を御がしむ。（11-107p）

■突厥〔鄭元璿は突厥可汗に利を説く〕丙子（12+60-46+1=27日），突厥は廉州を寇す。戊寅（14+60-46+1=29日），大震關（陝西省關中道隴山の西隴山の下、現・宝鶏市隴県）を陥す。上は鄭元璿を遣わして頡利に詣らしむ。是の時，突厥の精騎は數十萬，介休より晉州に至り，數百里の間，山谷に填溢す。元璿は頡利を見，責めるに約に負くを以てし，與に相い辨詰し，頡利は頗る慚じる。元璿は因りて頡利に説きて曰く、  
「唐は突厥と，風俗は同じからず，突厥は唐の地を得ると雖も，居る能わざる也。今虜掠して得る所は，皆な國人に入る，可汗に於いては何か有らん？師を旋し，復た和親を修めるに如かず，跋涉之勞無く，坐して金幣を受け，又た皆な可汗の府庫に入る可し，孰與ぞや、昆弟の積年之歡を棄て，而して子孫の無窮之怨みを結ぶを乎！」

頡利は悦び，兵を引いて還る。元璿は義寧より以來，五たび突厥に使いし，幾んど死せんとする者數々なり焉。

■突厥〔各地で突厥討伐〕九月，癸巳（20-15+1=6日），交州（西魏は北秦州を上郡に置く。廢帝三年に改めて交州という、現・陝西省咸陽市武功県）刺史の權士通、弘州（慶州弘化県、開皇十八るんに弘州を置く。大業の初め州廢す。蓋し唐は復た置く。甘肅省涇原道慶陽県、現・慶陽市慶陽県）總管の宇文歆、靈州總管の楊師道は突厥を三觀山に撃ち，之を破る。乙未（31-15+1=17日），太子は師を班す。丙申（32-15+1=18日），宇文歆は突厥を崇崗鎮に邀え、

大いに之を破り、斬首は千餘級。壬寅(38-15+1=24日)、定州總管の**雙士洛**等は突厥を恆山之南に撃ち、丙午(42-15+1=28日)、領軍將軍の**安興貴**は突厥を甘州(現・甘肅省張掖市)に撃ち、皆な之を破る。

■**劉黑闥**は瀛州を陥し、刺史の**馬匡武**を殺す。鹽州(ここは東鹽州)人の**馬君德**は城を以て叛して**黑闥**に附く。

■**高開道**は蠡州(武徳五年に瀛州の博野・清苑・定州の義豊を以て置く、現・河北省保定市蠡縣)を寇す。

■冬、十月、己酉(45-45+1=1日)、齊王の**元吉**に詔して**劉黑闥**を山東に討たしむ。壬子(48-45+1=4日)、元吉を以て領軍大將軍、并州大總管と為す。癸丑(49-45+1=5日)、貝州刺史の**許善護**は**黑闥**の弟の**十善**と**鄒縣**に戦い、**善護**は全軍皆な没す。甲寅(50-45+1=6日)、右武侯將軍の**桑顯和**は**黑闥**を晏城(隋の開皇十六年に冀州の鹿城を分けて晏城県を置く、濟南道齊河縣、現・山東省德州市齊河縣晏城街道)に撃ち、之を破る。觀州刺史の**劉會**は城を以て叛きて**黑闥**に附く。

■契丹は北平(平州)を寇す。

■甲子(60-45+1=16日)、秦王の**世民**を以て左、右十二衛大將軍(左右衛・左右驍衛・左右武衛・左右屯衛・左右領軍衛・左右候衛)を領せしむ。

■**[壯王道玄の戦死]**乙丑(1+60-45+1=17日)、行軍總管の淮陽の壯王の**道玄**は**劉黑闥**と下博(冀州に属す、現・河北省衡水市深州市南東部)に戦い、軍は敗れ、**黑闥**の殺す所と為る。時に**道玄**は兵三萬を將い、副將の**史萬寶**と協せず。**道玄**は輕騎を帥いて先ず出でて陳を犯し、**萬寶**をして大軍を將いて之に繼が使む。**萬寶**は兵を擁して進まず、親する所に謂って曰く、

「我は手救を奉ずるに雲う、淮陽(道玄)は小兒なり、軍事は皆な老夫に委ねるべし。今王は輕脫(輕率脱略)にして妄りに進み、若し之と俱にすれば、必ず同じく敗没せん、王を以て賊に餌とするに如かず、王敗れば、賊は必ず争いて進み、我は陳を堅くして以て之を待てば、之を破るは必なり矣。」

是に由りて**道玄**は獨り進みて敗没す。**萬寶**は兵を勒して將に戦わんとし、士卒は皆な鬥志無く、(11-108p)軍は遂に大いに潰え、**萬寶**は逃げ歸る。**道玄**は數々秦王の**世民**の征伐に従い、死する時は年十九なり、**世民**は深く之を惜しみ、人に謂って曰く、

「**道玄**は常に吾に従いて征伐し、吾が深く賊の陳に入るを見、心に之を慕效し、以て此に至る。」

之が為に流涕す。**世民**は兵を起してより以來、前後數十戰して、常に身は士卒に先んじ、輕騎にして深く入り、屢々危殆すると雖も而も未だ嘗て矢刃の傷つける所と為らず。

■**[林士弘勢力の滅亡]**林士弘は其の弟の鄱陽王の**藥師**を遣わして循州を攻めしめ、刺史の**楊略**は與に戦い、之を斬り、其の將の**王戎**は南昌州(此の年に洪州建昌縣を以て南昌州を置く、江西省豫章道南昌縣、現・南昌市南昌縣)を以て降る。士弘は懼れ、己巳(5+60-45+1=21日)、降を請う。尋いで復た走りて安成(吉州の安復は本は呉の置く安成縣、現・江西省吉安市安福縣)の山洞を保ち、袁州(宜春郡、現・江西省宜春市)の人は相い聚まりて之に應ず。洪州總管の**若干則**は兵を遣わして撃ちて之を破る。會々**士弘**は死し、其の衆は遂に散る。(隋の大業十三年に林士弘は盜を為す)

■**[劉黑闥は山東の旧地を回復]**淮陽王の**道玄**之敗れる也、山東は震駭し、洛州總管の廬江の**王瑒**は城を棄てて西に走り、州縣は皆な叛して**劉黑闥**に付き、旬日の間、**黑闥**は盡く故地を復し、乙亥(11+60-45+1=27日)、進みて洛州に據る。十一月、庚辰(16-14+1=3日)、滄州刺史の**程大買**は**黑闥**の迫る所と為り、城を棄てて走る。齊王の元吉は**黑闥**の兵強きを畏れ、敢えて進まず。

## 【李世民と太子・元吉・後宮の対立】

■ 【李世民と太子・元吉の間隙】 上之兵を晉陽に起す也 (183 卷隋の義寧元年にあり)、皆な秦王の世民之謀なり、上は世民に謂って曰く、

「若し事成れば、則ち天下は皆な汝の致す所なり、當に汝を以て太子と為さん。」

世民は拜し且つ辭す。唐王と為るに及び、將佐も亦た世民を以て世子と為すを請い、上は將に之を立てんとし、世民は固辭し而して止む。太子の建成は、性は寛簡にして、酒色游畋を喜ぶ。齊王の元吉は、過失多し。皆な上に寵無し。世民の功名は日々に盛んなり、上は常に以て建成に代わるの意有り、建成は内に自ら安ぜず、乃ち元吉と謀を協せ、共に世民を傾けんとし、各々黨友を引樹す。

■ 【後宮に皇子多く乱れる、太子二王並び立つ】 上は晩年に内寵多く、小王 (幼い皇子) は且に二十人 (母は妃嬪など十七人) にならんとし、其の母は競いて諸長子に交結し以て自ら固める。建成は元吉と意を曲げて諸妃嬪に事え、諂諛賂遺は、至らざる所無し、以て媚を上を求める。或は言う、

「張婕妤、尹德妃に蒸す」

と、宮禁は深秘にして、能く明かにする莫き也。是の時、東宮、諸王公、妃主之家及び後宮の親戚は長安中に横しまに、恣に非法を為し、有司は敢えて詰らず。世民は承乾殿 (西宮にあり) に居り、元吉は武德殿 (東宮の西) の後院に居り、上台 (帝の居室)、東宮と晝夜通行し、復た禁限無し。太子、二王は上台に出入し、皆な馬の乗り、弓刀雜物を攜え、相い遇すること家人の禮の如し。太子の令、秦、齊王の教は詔敕と並びて行われ、有司は従う所を知る莫し、唯だ得る之先後に據り定めと為す。世民は獨り諸妃嬪に奉事せず、諸妃嬪は争いて建成、元吉を譽め而るに世民を短る。

■ 【張婕妤・尹德妃の横暴】 世民は洛陽を平らげ、上は貴妃 (唐の制度、皇后の下に貴妃・淑妃・德妃・賢妃有り、是を夫人と為す) 等數人をして洛陽に詣りて隋の宮人を選閲し及び府庫の珍物を収め使む。貴妃等は私に世民に従いて寶貨を求め及び其の親屬の為に官を求め、世民は曰く、

「寶貨は皆な已に籍奏す、官は當に賢才にして功有る者に授くべし。」

皆な許さず、是に由りて益々怨む。世民は淮安王の神通の功有るを以て、田數十頃を給す。張婕妤之父は婕妤に因りて之を上求め、上は手敕して之を賜い、神通は教給が先に在るを以て、與えず。婕妤は上に訴えて曰く、

「敕して妾の父に田を賜う、秦王は之を奪い以て神通に與える。」

上は遂に怒りを發し、世民を責めて曰く、

「我的手敕は汝の教に如かず邪！」

他日、左僕射の裴寂に謂って曰く、

「此の兒は久しく兵を典りて外に在り、書生の教える所と為り、復た昔日の子に非ざる也。」

尹德妃之父の阿鼠は驕横なり、秦王の府屬の杜如晦は其の門を過ぎ、阿鼠の家童數人は如晦を曳きて馬より墜し、之を毆ち、一指を折りて、曰く、

「汝は何人ぞ、敢えて我が門を過ぎ而るに下馬せず！」

阿鼠は世民が上に訴えるを恐れ、先ず德妃をして奏さ使めて云う、

「秦王の左右は妾の家を陵暴す。」

上は復た怒りて世民を責めて曰く、

「我が妃嬪の家は猶ほ汝の左右の陵する所と為る、況んや小民を乎！」

世民は深く自ら辯析し、上は終に信じず。

■ **[李淵は漸く李世民を疎んじる]** 世民は宴に宮中に侍する毎に、諸妃嬪に對して、**太穆皇后**（李淵即位前に死す、太子三王の生母）が早く終り、上が天下を有つを見るを得ざるを思い、或は歔歔して流涕し、上は之を顧みて樂しまず。諸妃嬪は因りて密に共に**世民**を譖りて曰く、

「海内は幸に無事なり、**陛下**の春秋は高く、唯だ宜しく相い娛樂すべし、而るに秦王は毎に獨り涕泣す、正に是れ妾等を憎疾するなり。**陛下**萬歲の後、妾母子は必ず秦王の容れる所と為らず、子遺無からん(必ず皆誅殺されて一人も残らず)矣！」

因りて相い與に泣き、且つ曰う、

「**皇太子**は仁孝なり、**陛下**は妾の母子を以て之に屬せば、必ず能く保全せん。」

上は之が為に愴然とす。是に由りて**太子**を易えるの意無く、**世民**を待つこと浸く疏く、而して**建成**、**元吉**は日々に親し矣。

■ **[太子は劉黑闥討伐の功名を求める]** **太子**の中允（太子左春坊の左庶子の貳官）の**王珪**、洗馬の**魏徵**（『隋書』の序論、『梁書』・『陳書』・『北齊書』の総論を執筆）は**太子**を説いて曰く、

「秦王の功は天下を蓋い、中外は心を歸す。**殿下**は但だ年長を以て位は東宮に居り、大功の以て海内を鎮服する無し。今**劉黑闥**の散亡之餘は、衆は萬に滿たず、資糧は匱乏し、大軍を以て之に臨めば、勢いは朽ちたるを拉するが如し、**殿下**は宜しく自ら之を撃ち以て功名を取るべし、因りて山東の豪傑に結納すれば、庶わくは自ら安んず可し。」

**太子**は乃ち上に行くを請い、上は之を許す。**珪**は、**頰**（王僧辨の子、隋の漢王諒の反する時に死す）之兄の子也。甲申（20-14+1=7日）、**太子**の**建成**に詔して兵を將いて**黑闥**を討たしめ、其の陝東道大行台及び山東道行軍元帥、河南、河北諸州並びに**建成**の處分を受けしめ、便宜を以て從事するを得しむ。

■ **[李道宗を任城郡王と為す]** 乙酉（21-14+1=8日）、宗室の略陽公の**道宗**等十八人を封じて郡王と為す。**道宗**は、**道玄**の従父の弟也、靈州總管と為る。（11-110p）**梁師都**は弟の**洛兒**を遣わして突厥數萬を引いて之を圍み、**道宗**は間に乗りて出撃し、大いに之を破る。突厥は**師都**と連結し、其の**郁射設**を遣わして入りて故の五原（靈州に屬す。武徳の初め靈州に寄治す。故地は突厥の居る所となる）に居らしめ、**道宗**は逐いて之を出だし、地を斥くこと千餘里。上は**道宗**の武干は魏の任城王の**彰**（魏の曹操の子、烏丸を撃ちて功有り）の如きを以て、乃ち立てて任城郡王と為す。

■ 丙申（32-14+1=19日）、上は宜州（義寧二年に京兆の華原・宜君・同官を以て宜君郡を置く。武徳元年に宜州という。陝西省榆林道宜君県、現・銅川市宜君県）に幸す。

■ 己亥（35-14+1=22日）、齊王の**元吉**は兵を遣わして**劉十善**を魏州に撃たしめ、之を破る。

■ 癸卯（39-14+1=26日）、上は富平（雍州に屬す、陝西省関中道富平県、現・渭南市富平県）に校獵す。

■ **[劉黑闥の勢力拡大]** **劉黑闥**は兵を擁し而して南し、相州より以北の州縣は皆な之に付き、唯だ魏州總管の**田留安**は兵を勅して拒み守る。**黑闥**は之を攻め、下らず、兵を引いて南に元城（古の郡城に治し、朝城の東北十二里にあり）を抜き、復た還りて之を攻める。

■ 十二月、庚戌（46-44+1=3日）、宗室の**孝友**等八人を立てて郡王と為す。**孝友**は、**神通**之子也。

■ 丙辰（53-44+1=10日）、上は華池（京兆の三原県、武徳四年に池陽と改める。六年に華池。陝西省関中道三原県、現・咸陽市三原県）に校獵す。

■ 戊午（54-44+1=11日）、**劉黑闥**は恆州（漢の常山県、唐は恆州を置く、現・石家荘市正定県）を陥し、刺史の**王公政**を殺す。

■庚申 (56-44+1=13日), 車駕は長安に至る。

■癸亥 (59-44+1=16日), 幽州大總管の**李藝**は廉、定二州を復す。

■**[田留安は劉黑闥を撃つ]** 甲子 (60-44+1=17日), **田留安**は**劉黑闥**を撃ち、之を破り、其の莘州 (魏州の莘県、隋の開皇十六年に莘州を置く。大業二年に廃す、唐は復た置く、現・山東省聊城市莘県) 刺史の**孟柱**を獲り、將卒六千人を降す。是の時、山東の豪傑は多く長吏を殺して以て**黑闥**に應じ、上下は相い猜い、人は益々離れ怨む。**留安**は吏民を待つに獨り坦然として疑う無し、事を白す者は親疏を問う無く、皆な直ちに臥内に入るを聽し、毎に吏民に謂って曰く、

「吾は爾曹と俱に國の為に賊を御ぎ、固より宜しく同心して協力し、必ず順を棄て逆に従わんと欲する者は、但だ自ら吾が首を斬りて去るべし。」

吏民は皆な相い戒めて曰く、

「**田公**は至誠を推して以て人を待つ、當に共に死力を竭して之に報いるべし、必ず負く可からず。」

**苑竹林**という者有り、本は**黑闥**之黨なり、潜に異志有り。**留安**は之を知り、其の事を發せず、引いて左右に置き、委ねるに管鑰を以てす。**竹林**は感激し、遂に更めて心を歸し、卒に其の用を收む。功を以て進めて道國公に封じられる。

■乙丑 (1+60-44+1=18日), 并州刺史の**成仁重**は**范願**を撃ち、之を破る。

■**[劉黑闥を撃つも、逃げられる]** **劉黑闥**は魏州を攻めて未だ下らず、太子の**建成**、**齊王**の**元吉**の大軍は昌樂 (晋は昌樂県を置き、陽平郡に属す。直隸省大名道南樂県、現・濮陽市南樂県) に至り、**黑闥**は兵を引いて之を拒み、再び陳し、皆な戦わず而して罷む。**魏徵**は太子に言つて曰く、

「前に**黑闥**を破るや、其の將帥は皆な名を懸けて死に處し (亡命する者はまずその名を書し、處するに死罪を以てするなり)、妻子は系虜せり。故に**齊王**之來たるや、詔書有りて其の黨與之罪を赦すと雖も、皆な之を信じる莫し。今宜しく悉く其の囚俘を解き、慰諭して之を遣るべし、則ち坐して (11-111p) 其の離散を視る可し矣！」

太子は之に従う。**黑闥**の食は盡き、衆は多く亡げ、或は其の渠帥を縛して以て降る。**黑闥**は城中の兵出でて、大軍と表裡して之を撃たんことを恐れ、遂に夜遁げる。館陶 (魏州に属す、州北に在り。山東省東臨道館陶県の西南。隋の煬帝は永濟渠を穿ちて経る所、現・邯鄲市館陶県) に至り、永濟橋は未だ成らず、度を得ず。壬申 (8+60-44+1=23日), 太子、**齊王**は大軍を以て至り、**黑闥**は**王小胡**をして背水に而して陳ぜしめ、自ら橋を作りて成るを視、即ち橋の西に過ぎ、衆は遂に大いに潰え、仗を捨てて來降す。大軍は橋を度りて**黑闥**を追い、度を者は才に千餘騎なり、橋は壊れ、是に由りて**黑闥**は數百騎と與に亡げ去るを得たり。

■**[高句麗]** **[高句麗抑留戰士の返還]** 上は隋末の戰士の多く高麗に没するを以て、是の歲、高麗王の**建武**に書を賜い、悉く遣り還さしむ。亦た州縣をして高麗人の中土に在る者を索めて、其の國に遣り歸さしむ。**建武**は詔を奉じ、中國の民を遣り還すこと前後に萬を以て數える。

## 高祖神堯大聖光孝皇帝中之下武德六年 (癸未, 623年)

■**[諸葛德威は劉黑闥を執る]** 春, 正月, 己卯 (15-13+1=3日), **劉黑闥**の署する所の饒州刺史の**諸葛德威**は**黑闥**を執り、城を擧げて降る。時に太子は騎將の**劉弘基**を遣わして**黑闥**を追わしめ、**黑闥**は官軍の迫る所と為り、奔走して休息するを得ず、饒陽 (前漢は涿郡に属し、後漢は安平国に属し、晋魏には博陵郡に属し、隋は河間郡に属し、唐は深州に属す。黒闥は分けて饒州を置く、現・河北省衡水市饒陽県) に至り、從者は才に百餘人、餒えること甚

だし。徳威は出で迎え、黒闥を延きて入城し、黒闥は可かず。徳威は涕泣して固く請い、黒闥は乃ち之に従う。城旁の市中に至り憩止し、徳威は之に食を饋る。食未だ畢らず、徳威は兵ほ勒して之を執り、送りに太子に詣り、其の弟の十善を並せて洛州に斬る。黒闥は刑に臨みて歎じて曰く、

「我は幸いにも家に在りて菜を鉏けるに、高雅賢の輩（罪×）の誤れる所と為りて此に至る！」

### 【各地の反乱と投降の日々】

■ **【王摩沙の討伐】** 壬午（18-13+1=6日）、嵩州の人の王摩沙は擧兵し、元帥を自稱し、改元して進通とす。驃騎將軍の衛彦を遣わして之を討たしむ。

■ 庚子（36-13+1=24日）、吳王の杜伏威を以て太保（唐の制では太師・太傅・太保を三師とす、正一品、天子の師法とする所。職を帯びる無し顧問格。功德崇重なる者を居らしむ）と為す。

■ **【驪山の温泉】** 二月、庚戌（46-43+1=4日）、上は驪山（陝西省関中道の臨潼劍の東南の山）の温湯（温泉、ここに天寶にここに華清宮を起す、楊貴妃で有名）に幸す。甲寅（50-43+1=8日）、宮に還る。

■ **【平陽昭公主の葬に鼓吹あり】** 平陽昭公主は薨す。戊午（54-43+1=12日）、公主を葬す。詔して前後部鼓吹、班劍（劍を持して列を成し道を挟みて行く）四十人、武賁（虎賁、李虎の字を諱みて武とす）の甲卒を加える。太常は奏す、

「禮に、婦人には鼓吹無し。」

上は曰く、

「鼓吹は、軍樂也。公主は親ら金鼓を執り、義兵を興し（183 卷隋の義寧元年にあり）以て大業を輔成す、豈に常の婦人と比せん乎！」

■ **【徐圓朗の滅亡】** 丙寅（2+60-43+1=20日）、徐圓朗は窮蹙し、數騎と城を棄てて走り、野人の殺す所と為り、其の地は悉く平らぐ。

■ **【林邑王の入貢】** 林邑王の梵志は遣使して入貢す。初め、隋人は林邑を破り（180 卷隋の大業九年）、其の地を分けて三郡（比景・海陰・林邑）と為す。中原の喪亂に及び、林邑は國を復し、（11-112p）是に至りて始めて入貢す。

■ 幽州總管の李藝は入朝を請う。庚午（6+60-43+1=24日）、藝を以て左翊衛大將軍と為す。

■ 參旗等十二軍（詳細は188 卷二年にあり）を廢す。

■ **【高開道の侵入】** 三月、癸未（19-13+1=7日）、高開道は文安（前漢に渤海郡の県、後漢には河間國、晋には章武郡に属し、唐には瀛洲に属す、現・河北省廊坊市文安県文安鎮）、魯城（開皇十六年置く、復た瀛洲に属す）を掠し、驃騎將軍の平善政は邀撃して、之を破る。

■ 庚子（36-13+1=24日）、梁師都の將の賀遂、索同は所部十二州を以て來降す。

■ 乙巳（41-13+1=29日）、前洪州總管の張善安は反し、舒州（同安郡、隋は熙州と為す。武徳四年に舒州と改める。古の羣序の國なるを以てす、現・安徽省安慶市桐城市）總管の張鎮周等を遣わして之を撃たしむ。

■ **【吐谷渾】** **【吐谷渾の侵入】** 夏、四月、吐谷渾は芳州（武徳元年に同昌の常芬県を以て置く、現・甘肅省甘南チベット族自治州テウオ県）を寇し、刺史の房當樹は松州（武徳の初めに置く。甘松嶺より名付ける。四川省西側道松潘県、現・アバ・チベット族チャン族自治州松潘県）に奔る。張善安は孫州（武徳五年に洪州南昌県に置く、江西省豫章道南昌県治、現・南昌市南昌県）を陥し、總管の王戎を執り而して去る。

■ 乙丑（1+60-42+1=20日）、鄜州道行軍總管の段德操は梁師都を撃ち、夏州に至り、其の民畜を俘とし而して還る。

**吐谷渾**丙寅 (2+60-42+1=2 1 日), 吐谷渾は洮、岷二州を寇す。

■ **嶺南の反乱** 丁卯 (3+60-42+1=2 2 日), 南州 (武徳四年に合浦郡の南昌・合浦に置く、六年白州に改める) 刺史の**龐孝恭**、南越州 (合浦郡の旧越州を置き、隋は合州とし、武徳四年に越州とするが、会稽の越州と別にして南越州とする) の民の**寧道明**、高州 (現・広東省茂名市茂南区) の首領の**馮暄**は俱に反し、南越州を陥し、進みて姜州 (現・江西省上饒市上饒県靈山) を攻める。合州 (現・広東省湛江市一帯) 刺史の**寧純**は兵を引いて之を救う。

■ 壬申 (8+60-42+1=2 7 日), 皇子の**元軌**を立てて蜀王と為し、**鳳**を豳王と為し、**元慶**を漢王と為す。

■ 癸酉 (9+60-42+1=2 8 日), **裴寂**を以て左僕射と為し、**蕭瑀**を右僕射と為し、**楊恭仁**を吏部尚書兼中書令と為し、**封德彝**を中書令と為す。

■ 五月, 庚辰 (16-12+1=5 日), 岐州 (扶風郡、現・陝西省宝鸡市一帯) 刺史の**柴紹**を遣わして岷州を救わしむ。

### 【突厥・吐谷渾との戦い続く】

■ **吐谷渾** **吐谷渾及び党項は河州を寇す** 庚寅 (26-12+1=1 5 日), 吐谷渾及び党項 (タングート) は河州 (現・臨夏回族自治区臨夏市城郊鎮) を寇し、刺史の**盧士良**は撃ちて之を破る。

■ **突厥** **辛獠・突厥は林州を寇す** 丙申 (32-12+1=2 1 日), 梁師都の將の**辛獠**は突厥を引きて林州 (慶州華池県に武徳四年に林州総管府を置く、現・甘肅省慶陽市華池県) を寇す。

■ **高滿政は代州を寇す** 戊戌 (34-12+1=2 3 日), **苑君彰**の將の**高滿政**は代州を寇し、驃騎將軍の**李寶言**は撃ちて之を走らす。

■ **突厥** **高開道・突厥は幽州を寇す** 癸卯 (39-12+1=2 8 日), **高開道**は奚騎を引きて幽州を寇し、長史の**王詵**は撃ちて之を破る。**劉黑闥**之叛する也、**突地稽**は兵を引いて唐を助け、其の部落を幽州之昌平城 (軍都関の南にあり) に徙す。**高開道**は突厥を引いて幽州を寇し、**突地稽**は兵を將いて邀撃し、之を破る。

■ **高滿政は突厥を殺し馬邑を以て降る** 六月, 戊午 (54-41+1=1 4 日), **高滿政**は馬邑を以て來降す。是より先, 前并州總管の**劉世讓**は廣州總管に除せられ、將に官に之かんとし、上は問うに邊に備える之策を以てし、**世讓**は對えて曰く、

「突厥は比 <sup>このごろ</sup> 數々 (11-113p) 寇を為し、<sup>まこと</sup> 良に馬邑の之が中頓 (中道に城有りて糧食有り、頓食する。食を置くを頓、唐人は多く置頓という) と為るを以ての故也。請う、勇將を以て崞城に戍せしめ、多く金帛を貯え、募りて降る者有れば厚く之を賞し、數々騎兵を出して其の城下を掠め、其の禾稼を <sup>ふみにじ</sup> 蹂り、其の生業を敗れば、歲餘を出でずして、彼は食する所無く、必ず降らん矣。」

上は其の計を然りとし、曰く、

「公に非ざれば、誰をか勇將と為さん！」

即ち**世讓**に命じて崞城に戍せしめ、馬邑は之を病む。是の時、馬邑の人は多く突厥に屬するを願わず、上は復た人を遣わして**苑君璋**を招諭せしむ。**高滿政**は**君璋**に説く、

「盡く突厥の戍兵を殺して唐に降るべし」

と、**君璋**は從わず。**滿政**は衆心の欲する所に因り、夜**君璋**を襲い、**君璋**は之を覺り、亡げて突厥に奔り、**滿政**は**君璋**之子及び突厥の戍兵二百人を殺し而して降る。

■ 壬戌 (58-41+1=1 8 日), 梁師都は突厥を以て匡州 (武徳に綏州延福県の地を以て北吉州・羅州・匡州を置く、陝西省榆林道綏徳県東南、現・榆林市綏徳県) を寇す。

■ **高滿政を朔州總管** 丁卯 (2+60-41+1=2 2 日), **苑君璋**は突厥の**吐屯設**と馬邑を寇し、**高滿政**は與に戦い、之を破る。**滿政**を以て朔州總管と為し、榮國公に封じらる。

■ **【敦煌の制圧】**瓜州（隋は敦煌郡に置く、武徳五年に沙州に改め、沙州の常樂県を分けて瓜州晋昌郡と為す）總管の**賀若懷廣**は部を按じて沙州に至り、州人の**張護**、**李通**が反するに値う。**懷廣**は數百人を以て子城に保す。涼州總管の**楊恭仁**は兵を遣わして之を救い、**護**等の敗る所と為る。

■ **吐谷渾** **【吐谷渾を欺く】**癸酉（9+60-41+1=29日）、**柴紹**（岷州を救う）は吐谷渾と戦い、其の圍む所と為り、虜は高きに乗じて之を射て、矢は下ること雨の如し。**紹**は人を遣わして胡琵琶を弾じ、二女子をして對して舞わしむ。虜は之を怪しみ、弓矢を駐めて相い與に聚まり觀て、**紹**は其の備え無きを察し、潜に精騎を遣わして虜の陳後に出でて之を撃たしめ、虜の衆は大いに潰える。

■ **秋**、七月、丙子（12-11+1=2日）、**苑君璋**は突厥を以て馬邑を寇し、右武侯大將軍の**李高遷**及び**高滿政**は之を御ぎ、臘河谷に戦い、之を破る。

■ **張護**、**李通**は**賀若懷廣**を殺し、汝州（沙州に作るべし）別駕の**竇伏明**を立てて主と為し、進みて瓜州に逼る。長史の**趙孝倫**は撃ちて之を卻く。

■ **高開道**は赤岸鎮（定州唐県に在り）及び**靈壽**（并州に属す）、**九門**（恒州に属す）、**行唐**（恒州に属す）の三縣を掠め而して去る。

■ **丁丑**（13-11+1=3日）、**崗州**（隋は新會郡に置く、地に金岡あり、大業の初めに廢す、武徳四年に復た廣州の新會・義寧二県を持って岡州を置く）刺史の**馮士翽**は新會（広東省粵海道新會県治、現・江門市新会区）に據りて反し、廣州總管の**劉感**は討ちて之を降し、其の位を復せ使む。

■ **辛巳**（17-11+1=7）、**高開道**の所部の**弘陽**、**統漢**二鎮は來降す。

■ **【太子・世民は突厥に備える】**癸未（19-11+1=9日）、突厥は原州（漢の高平郡の地）を寇す。乙酉（21-11+1=11日）、朔州を寇す。**李高遷**は虜の敗る所と為り、行軍總管の**尉遲敬德**は兵を將いて之を救う。己亥（35-11+1=25日）、太子を遣わして兵を將いて北邊（原州の寇に備える）に屯せしめ、**（11-114p）**秦王の**世民**をして并州（朔州の寇に備える）に屯せしめ、以て突厥に備える。八月、甲辰（40-40+1=1日）、突厥は真州（陝西省榆林道葭県の西に置く）を寇し、又た馬邑を寇す。

## 【輔公祐は宋国を称する】

■ **【杜伏威入朝中に輔公祐は反し皇帝を称する】**壬子（48-40+1=8日）、淮南道行台僕射の**輔公祐**は反す。初め、**杜伏威**は**公祐**と相い友善し、**公祐**は年長じ、**伏威**は之に兄事し、軍中之を伯父と謂い、畏敬して**伏威**と等し。**伏威**は浸く之を忌み、乃ち其の養子の**闕稜**を署して左將軍と為し、**王雄誕**を右將軍と為し、潜に其の兵權を奪う。**公祐**は之を知り、怏怏として平らかならず、其の故人の**左遊仙**と陽りて道を學び穀を辟ける為し以て自ら晦ます。**伏威**の入朝（前年）するに及び、**公祐**を留めて丹楊（南朝の旧丹陽）を守らしめ、**雄誕**をして兵を典りて之が副と為ら令め、陰に**雄誕**に謂って曰く、

「吾は長安に至り、苟くも職を失わざれば、**公祐**をして變を為さ令むる勿れ。」

**伏威**は既に行き、**左遊仙**は**公祐**を説いて反を謀る。而るに**雄誕**は兵を握り、**公祐**は發するを得ず。乃ち詐りて**伏威**の書を得ると稱し、**雄誕**の貳心有るを疑い、**雄誕**は之を聞き悦ばず、疾と稱して事を視ず。**公祐**は因りて其の兵を奪い、其の黨の**西門君儀**をして諭すに反計を以てせ使む。**雄誕**は始めて寤り而して之を悔み、曰く、

「今天下は方に平定せんとし、吳王（杜伏威）は又た京師に在り、大唐の兵威は、向かう敵無し、奈何して故無く自ら族滅を求めん乎！**雄誕**は死有り而して已む、敢えて命を聞かず。今公に従いて逆を為せば、百日之命を延べるに過ぎざる耳、大丈夫は安んぞ能く**斯須**之死を愛しみ、而して自ら不義に陥らん乎！」

公祐は屈せざるを知り、縊りて之を殺す。雄誕は善く士卒を撫し、其の死力を得る、又た約束嚴整にして、城邑を破る毎に、秋毫も犯す無し。死する之日、江南の軍中及び民間は皆な之が為に流涕す。公祐も又た詐りて、

「伏威は江南に還るを得ず、書を貽り其をして兵を起こさ令む」と稱し、大いに鎧仗を修め、糧儲を運ぶ。尋いで丹楊に於いて帝を稱し、國號を宋とし、陳の故の宮室を修め而して之に居る。百官を署置し、左遊仙を以て兵部尚書、東南道大使、越州總管と為し、張善安と兵を連らね、善安を以て西南道大行台と為す。

■突厥 己未 (55-40+1=16日)、突厥は原州を寇す。

■[王孝恭の輔公祐討伐軍] 乙丑 (1+60-40+1=22日)、襄州道行台僕射の趙郡の王孝恭に詔して舟師を以て江州(南朝の尋陽郡、隋の九江郡)に趣き、嶺南道大使の李靖をして交、廣、泉、桂之衆を以て宣州(宣城郡)に趣き、懷州總管の黃君漢をして譙、亳に出で、齊州總管の李世勣をして淮、泗(泗水より淮に入る)に出で、以て輔公祐を討たしむ。孝恭は將に發せんとし、諸將と宴集し、命じて水を取らしめ、忽ち變じて血と為り、坐に在るは皆な色を失い、孝恭は舉止自若として、曰く、

「此れ乃ち公祐の首を授ける之征也！」  
飲み而して之を盡くし、衆は皆な悦服す。

■吐谷渾 丙寅 (2+60-40+1=23日)、吐谷渾は内附す。(11-115p)

■突厥 辛未 (7+60-40+1=28日)、突厥は原州之善和鎮を陷す。癸酉 (9+60-40+1=30日)、又た渭州(隴西郡)を寇す。

■高開道は奚を以て幽州を侵し、州兵は撃ちて之を卻く。

■九月、丙子 (12-10+1=3日)、太子は師を班す。(北辺より還る)

■[輔公祐は迎撃] 戊子 (24-10+1=15日)、輔公祐は其の將の徐紹宗を遣わして海州を寇さしめ、陳政通をして壽陽(壽州の治所、現・安徽省淮南市寿县)を寇さしむ。邛州(臨邛郡。武徳元年に雅州を分けて置く、現・四川省成都市邛崍市臨邛街道)の獠は反し、沛公の鄭元璠を遣わして之を討たしむ。

■突厥 庚寅 (26-10+1=17日)、突厥は幽州を寇す。

■[李世民に輔公祐討伐を命じる] 壬辰 (28-10+1=19日)、詔して秦王の世民を以て江州道行軍元帥と為す。

### 【突厥との和戦交々】

■乙未 (31-10+1=22日)、竇伏明は沙州を以て降る。

■高昌 高昌王の麴伯雅は卒し、子の文泰は立つ。

■丙申 (32-10+1=23日)、渝州(巴郡。漢の江州郡。四川省東川道巴県の西、現・重慶市巴南区)の人の張大智は反し、刺史の薛敬仁は城を棄てて走る。

■壬寅 (38-10+1=29日)、高開道は突厥二萬騎を引いて幽州を寇す。

■突厥 [李淵は突厥にだまされる] 突厥は弘農公の劉世讓が己に患いを為すと惡み、其の臣の曹般隋を遣わして來たり、言う、

「世讓は可汗と通謀し、亂を為さんと欲す」

と、上は之を信じる。冬、十月、丙午 (42-39+1=4日)、世讓を殺し、其の家を籍没(籍×)す。(胡三省曰く、言を聴くの道、必ず其の事を以て之を觀る。突厥は間を用い、高祖は遽に之を信じて、干城の將を殺す。不明甚だしと)

■秦王の世民は猶ほ并州に在り、己未（55-39+1=17日）、世民に詔して軍を引いて還らしむ。

■上は華陰に幸す。

■胡の（統は無し）張大智は涪州（涪陵郡。武徳元年に渝州の涪陵鎮を以て置く。四川省東川道涪陵県、現・重慶市涪陵區）を侵し、刺史の田世康等は之を討ち、大智は衆を以て降る。

■[朔州總管の高滿政は突厥に殺される] 初め、上は右武侯大將軍の李高遷を遣わして朔州總管の高滿政を助けて馬邑を守らしむ、苑君璋は突厥萬餘騎を引いて城下に至り、滿政は撃ちて之を破め。頡利可汗は怒り、大いに兵を發して馬邑を攻める。高遷は懼れ、所部二千人を帥いて關を斬りて宵に遁げ、虜は之を邀え、失亡する者は半ばなり。頡利は自ら衆を帥いて城を攻め、滿政は兵を出して之を御ぎ、或は一日戦うこと十餘合。上は行軍總管の劉世讓に命じて之を救わしめ、松子嶺（地不明）に至り、敢えて進まず、還りて崞城を保つ。會々頡利は遣使して求婚し、上は曰く、

「馬邑之圍みを釋けば、乃ち婚を議すも可なり。」

頡利は兵を解かんと慾し、義成公主は固く之を攻めんと請う。頡利は高開道の善く攻具を為るを以て、開道を召し、之と馬邑を攻めること甚だ急なり。頡利は滿政を誘いて降ら使めんとし、滿政は之を罵る。糧は且に盡きんとし、救兵は未だ至らず、滿政は圍を潰して朔州に走らんと欲し、右虞候（隋の文帝は東宮に左右虞候府を置き、斥候を掌らしむ。この後に州鎮に各々虞候を置き、以て衛前の職と為す。不虞に備候するを以て名付ける）の杜士遠は虜兵の盛んなるを以て、免れざるを恐れ、（11-116p）壬戌（58-40+1=19日）、滿政を殺して突厥に降り、苑君璋も復た城中の豪傑の滿政と同じく謀る者三十餘人を殺す。上は滿政の子の玄積を以て上柱國と為し、爵を襲わしむ。丁卯（3+60-40+1=24日）、突厥は復た和親を請い、馬邑を以て唐に歸す。上は將軍の秦武通を以て朔州總管と為す。

■突厥[竇靜は太原に屯田を提言] 突厥は數々邊患を為し、并州大總管府の長史の竇靜は表して請う、  
「太原に於いて屯田を置き、以て饋運（食料運搬）を省かん」

議者は以て煩擾と為し、許さず。靜は切論して已まず、敕して靜を征して入朝せしめ、裴寂、蕭瑀、封德彝と相い上前に於いて論難せ使め、寂等は屈する能わず、乃ち靜の議に従い、歲ごとに數千斛を収める、上は之を善しとし、命じて并州大總管を檢校せしむ。靜は、抗之子也。十一月、辛巳（17-9+1=9日）、秦王の世民は復た屯田を并州之境に増置するを請い、之に従う。

### 【輔公祐討伐前哨戦】

■[周法明は刺客に殺される] 黃州（漢の邾縣の地。蕭氏の齊は齊安郡を置く。隋は黃州を置く。湖北省江漢道黃岡県、現・黃岡市）總管の周法明は兵を將いて輔公祐を撃ち、張善安は夏口に據りて、之を拒む。法明は荊口鎮（荊口の口の鎮、漢陽の界にあり）に屯す。壬午（18-9+1=10日）、法明は戦艦に登りて飲酒し、善安は刺客數人を遣わして詐りて魚鱗（漁船）に乗り而して至らしめ、見る者は以て虞りを為さず、遂に法明を殺し而して去る。

■甲申（20-9+1=12日）、舒州總管の張鎮周等は輔公祐の將の陳當世を歙州（武徳三年に宜州の涇県を以て南徐州を置く。尋いで改めて歙州という。安徽省蕪湖道涇県、現・宣城市涇県）之黃沙に撃ち、大いに之を破る。

■丁亥（23-9+1=15日）、上は華陰に校獵す。己丑（25-9+1=17日）、秦王の世民を忠武頓に迎勞す（并秀り帰還）。

■[李大亮は張善安を執る] 十二月、癸卯（39-38+1=2日）、安撫使の李大亮は張善安を誘い、之を執る。大亮は善安を洪州に撃ち、善安と水を隔て而して陳し、遙に相い與に語る。大亮は諭すに禍福を以てし、

善安は曰く、

「善安は初めより反心無し、正に將士の誤まる所と為る。降らんと欲すれども又た免かれざるを恐れる。」

大亮は曰く、

「張總管は降る心有れば、則ち我と一家なる耳。」

因りて單騎にて水を渡りて其の陳に入り、善安と手を執りて共に語り、猜間無きを示す。善安は大いに悦び、遂に之に降るを許す。既に而して善安は數十騎を將いて大亮の營に詣り、大亮は其の騎を門外に止め、善安を引いて入り、與に語り、之久しく、善安は辭去し、大亮は武士に命じて之を執らしめ、從騎は皆な走る。善安は營中に之を聞き、大いに怒り、衆を悉くし而して來たり、將に大亮を攻めんとす。大亮は人をして之を諭さ使めて曰く、

「吾は總管を留めず。總管の赤心は國に歸し、我に謂って曰く、『若し營に還れば、恐らくは將士は或は異同有り、其の制する所と為る』と。故に自ら留りて去らざる耳、卿の輩は何ぞ我を怒るや！」

其の黨は復た大いに罵りて曰く、

「張總管は我を賣り以て自ら人に媚びる。」

遂に皆な潰え去る。大亮は追撃し、虜獲する所多し。善安を長安に送り、善安は自ら輔公祐と交通せざるを稱し、上は其の罪を赦し、善く之を遇す。公祐の敗れるに及び、與に往還する所の書を得、(11-117p)乃ち之を殺す。

■甲寅 (50-38+1=13日)、車駕は長安に至る。

■突厥 己巳 (5+60-38+1=28日)、突厥は定州を寇し、州兵は撃ちて之を走らす。

■庚申 (56-38+1=19日)、白簡 (白蘭に作るべし)、白狗羌 (隋書に、羌に白蘭・白狗等の種有り) は並せて遣使して入貢す。

## 高祖神堯大聖光孝皇帝中之下武德七年 (甲申, 624年)

■ [州に大中正一人を置く] 春, 正月, 周、齊の舊制 (魏晉も) に依り、州毎に大中正一人を置き、州内の人物を知り、望第を品量するを掌らせ、本州の門望の高き者を以て之を領せしめ、品秩無し。

■ 壬午 (18-8+1=11日)、趙郡王の孝恭は輔公祐の別將を樅陽 (漢の廬江郡に属す県、梁は樅陽郡を置く) に撃ち、之を破る。

■ [山東の鄧同穎の乱] 庚寅 (26-8+1=19日)、鄒州 (唐初に齊州の鄒平・長山を以て置く、現・山東省鄒平市九戶鎮成家村) 人の鄧同穎は刺史の李士衡を殺して反す。

■ [羌の地に二州設置] 丙申 (32-8+1=25日)、白狗等の羌の地を以て維 (維川郡、治所は薛城県、現・四川省理縣東北)、恭 (西恭州、雲南・四川省境) 二州を置く。

■ [輔公祐と李大亮の激突] 二月, 辛丑 (37-37+1=1日)、輔公祐は兵を遣わして猷州 (宜州涇県に唐の武德二年に南徐州を置く、その年改めて猷州と為す。安徽省涇県西南三十里、猷州は南陽縣に治す、現・黄山市黄山区永豊郷塔嶺村) を圍み、刺史の左難當は城を嬰して自ら守る。安撫使の李大亮は兵を引いて公祐を撃ち、之を破る。趙郡王の孝恭は公祐を鵠頭鎮 (宜州南陵県に在り、現・銅陵市義安区) に攻めて、之を抜く。

■ 高句麗 百濟 新羅 [高句麗・百濟・新羅の冊封] 丁未 (43-37+1=7日)、高麗王の建武は遣使して來たりて曆 (歴×) を班けるを請う。遣使して建武を冊して遼東郡王、高麗王と為す。百濟王の夫餘璋を以て帶方郡王と為し、新羅王の金真平を樂浪郡王と為す。

■始州の獠は反し、行台僕射の**竇軌**を遣わして之を討たしむ。

■ [州縣郷に学を置く] 己酉 (45-37+1=9 日)、諸州に詔す、

「一經以上に明かにして未だ仕えざる者有れば、鹹な名を以て聞せしむ。州縣及び郷は皆な學を置くべし。」

■壬子(48-37+1=12 日)、行軍副總管の**權文誕**は**輔公祐**之黨を猷州に破り、其の枚洄等四鎮を抜く。

■丁巳 (53-37+1=17 日)、上は國子學に幸し、釋奠 (孔子および儒教における先哲を先師・先聖として祀る儀式) す。諸王公子弟に詔して各々學に就かしむ。

■戊午 (54-37+1=18 日)、大總管を改めて大都督府と為す。

■ [張金樹は高開道を殺して來降] 己未 (55-37+1=19 日)、高開道の將の**張金樹**は開道を殺して來降す。

開道は天下皆な定まるを見、降らんと欲し、自ら數々反覆するを以て、敢えてせず。且つ突厥之衆を恃み、遂に降る意無し。其の將卒は皆な山東人なり、郷里を思い、咸な離心有り。開道は勇敢の士數百を選び、之を假子と謂い、常に閣内に直せしめ、**金樹**をして之を領せしむ。故の**劉黑闥**の將の**張君立**は亡げて開道の所に在り、**金樹**と密に開道を取るを謀る。**金樹**は其の黨數人を遣わして閣内に入り、假子と遊戯し、夕に向かわんとし、潛に其の弓弦を斷ち、刀槩を床下に藏し、合暝 (人の眠る時は目合いて暝す) し、之を抱きて趨り出、**金樹**は其の黨を帥いて大いに噪ぎ、開道の閣を攻め、假子は將に之を御がんとし、而して弓弦は皆な絶え、刀槩は已に失い、争いて出で降る。**君立**も亦た火を外に擧げ與に相い應じ、内外は惶擾す。開道は免れざるを知り、乃ち甲を擯し兵を持し (11-118p) 堂上に坐し、妻妾と樂を奏して酣飲し、衆は其の勇を憚り、敢えて逼らず。天且に明けんとし、開道は縊くくり妻妾及び諸子は、乃ち自殺す。**金樹**は兵を陳じ、悉く假子を収めて之を斬り、並せて**君立**を殺し、死者は五百餘人。遣使して來降し、詔して其の地を以て媯州を置く。壬戌 (58-37+1=22 日)、**金樹**を以て北燕州都督 (北齊は北燕州を置き、本は懷戎に治す。唐は既に懷戎に媯州を置き、又北燕州都督の名を以て金樹を寵愛す) と為す。

■ [獠の反乱] 戊辰 (4+60-37+1=28 日)、洋 (洋川郡、西郷県に治す、武徳元年に唐は洋州を置く、現・陝西省漢中市西郷県)、集 (符陽郡、現・四川省巴中市) の二州の獠は反し、隆州 (巴西郡は漢の閬中の地、現・四川省南充市西充県) の晉城を陥す。

■ [杜伏威の死亡と名籍復活] 是の月、太保の吳王の**杜伏威**は薨ず。**輔公祐**之反する也、詐りて**伏威**之命と稱して以て其の衆を結く。**公祐**の平らぐに及び、趙郡王の**孝恭**は其の詐りを知らず、狀を以て聞す。詔して**伏威**の名、籍を追除して其の妻子を没す。**太宗**の即位に及び、其の冤なるを知り、之を赦し、其の官爵を復す。

■ [唐の官僚制度] 三月、初めて令を定め、太尉、司徒、司空を以て三公と為し、次に尚書、門下、中書、秘書、殿中、内侍を六省と為し、次に御史台、次に太常より太府に至りて九寺 (太常・光祿・衛尉・宗正・太僕・大理・鴻臚・司農・太府) と為し、次に將作監、次に國子學、次に天策上將府、次に左、右衛より左、右領衛に至るまで十四衛と為す。東宮には三師、三少、詹事及び兩坊 (門下坊・典書坊)、三寺 (家令寺・率更寺・僕寺)、十率府 (左右の衛率・宗衛率・虞候率・監門率・内率) を置く。王、公には府佐、國官を置き、公主には邑司を置き、並びに京職事官と為す。州、縣、鎮、戍を外職事官と為す。開府議同三司より將仕郎に至るまで二十八隊、文散官と為す。驃騎大將軍より陪戎副尉に至るまで三十一階、武散官と為す。上柱國より武騎尉に至るまで十二等、勳官と為す。

## 【輔公祐を平定】

■丙戌（22-7+1=16日），趙郡王の**孝恭**は**輔公祐**を蕪湖（宜州當塗県の界、現・安徽省蕪湖）に破り，梁山（和州歴陽県、安徽省安慶道和県の南七十里にあり、現・馬鞍山市和县）等三鎮を抜く。辛卯（27-7+1=21日），安撫使の**任瑰**は揚子城（続は揚子城、揚州江都郡県界に在り。揚州は江都に治す、古の廣陵城）を抜き，廣陵城主の**龍龕**は降る。

■**突厥**丁酉（33-7+1=27日），突厥は原州を寇す。

■戊戌（34-7+1=28日），趙郡王の**孝恭**は丹楊に克つ。

■**[孝恭は輔公祐を破り江南は平らぐ]**是より先，**輔公祐**は其の將の**馮慧亮**、**陳當世**を遣わして舟師三萬を將いて博望山（天門山は宜州當塗県の西南三十里に在り。又峨眉山と名付ける、江を挟みて対峙す。東を博望とちいい、西を梁山という）に屯し，**陳正通**、**徐紹宗**をして歩騎二萬を將いて青林山（當塗県東南）に屯し，仍って梁山に於いて鐵鎖を連ね以て江路を斷ち，卻月城を築き，延袤十餘里，又た壘を江西に結びて以て官軍を拒む。**孝恭**は**李靖**と舟師を帥いて次舒州に次し，**李世勣**は歩卒一萬を帥いて淮を渡り，壽陽（現・安徽省淮南市寿县）を抜き，硤石（現・安徽省安慶市桐城市）に次す。**慧亮**等は壁を堅めて戦わず，**孝恭**は奇兵を遣わして其の糧道を絶ち，**慧亮**等の軍は食乏しく，夜，兵を遣わして**孝恭**の營に薄り，**孝恭**は安臥して動かず。**孝恭**は諸將を集めて軍事を議し，皆な曰く、

「**慧亮**等は強兵を擁し，水陸之險に據り，之を攻めても猝に抜く可からず，（11-119p）直ちに丹楊を指すに如かず，其の巢穴を掩うべし。丹楊が既に潰えれば，**慧亮**等は自ら降らん矣！」

**孝恭**は將に其の議に従わんとし，**李靖**は曰く、

「**公祐**の精兵は此の水陸二軍に在りと雖も，然るに自ら將いる所（後×）も亦た少なからずと為す，今博望の諸柵は尚ほ抜く能わず，**公祐**は石頭に保據し，豈に取り易からん哉！丹楊に進攻し，旬月下らざれば，**慧亮**等は吾が後を躡み，腹背に敵を受け，此は危道也。**慧亮**、**正通**は皆な百戦の餘賊なり，其の心は戦わんと欲せざるに非ず，正に**公祐**は計を立て之をして持重せしめ，以て我が師を老せんと欲するを以てなる耳。我は今其の城を攻めて以て之に挑めば，一舉に破る可き也！」

**孝恭**は之を然りとし，羸兵をして先ず賊壘を攻めしめ而して精兵を勒して陳を結びて以て之を待つ。壘を攻める者は勝たず而して走り，賊は兵を出して之を追い，行くこと數里，大軍に遇い，與に戦い，大いに之を破る。**闕稜**は胄を免ぎ賊衆に謂って曰く、

「汝が曹は我を識らざる邪？何ぞ敢えて來たりと我と戦うや！」

賊衆は多く**稜**の故の部曲なり，皆な鬥志無く，或は拜する者有り，是に由り遂に敗れる。**孝恭**、**靖**は勝ちに乗りて北げるを逐い，轉戦すること百餘里，博山、青林の兩戍は皆な潰え，**慧亮**、**正通**等は遁げ歸り，殺傷及び溺死する者は萬餘人なり。**李靖**の兵は先ず丹楊に至り，**公祐**は大いに懼れ，兵數萬を擁するも，城を棄てて東に走り，**左遊仙**に會稽に就かんと欲し，**李世勣**は之を追う。**公祐**は句容（蔣州に属す、建康城の東九十里、江蘇省金陵道句容県、現・鎮江市句容市）に至り，從兵の能く屬する者は才わずかに五百人，夜，常州に宿し，其の將の**吳騷**等は之を執らんと謀る。**公祐**は之を覺り，妻子を棄て，獨り腹心數十人を將いて，關を斬りて走る。武康（吳は烏程・餘杭を分けて永安県を立てる。晋は改めて永康と為し、又改めて武康と為す、湖州に属す。州の西南170里にあり。浙江省錢唐道餘杭県、現・杭州市余杭区）に至り，野人の攻める所と為り，**西門君儀**は戦死す。**公祐**を執り，丹楊に送りて梟首し，餘黨を分けて捕え，悉く之を誅し，江南は皆な平らぐ。

■**[李靖の功績大]**己亥（35-7+1=29日），**孝恭**を以て東南道行台右僕射と為し，**李靖**を兵部尚書と為す。之頃して，行台を廢し，**孝恭**を以て揚州大都督と為し，**靖**を府の長史と為す。上は深く**靖**の功を美とし，曰く、

「靖は、蕭（蕭銑）、輔（輔公祐）之膏肓也。」

■ **〔關稜の誅殺〕** 關稜は功多く、頗る自ら矜伐す。公祐は稜が己と謀を通じるを誣う。會趙郡王の孝恭は賊黨の田宅を籍沒（賊黨の有する田宅を挙籍して没して官に入れる）し、稜及び杜伏威、王雄誕の田宅の賊境に在る者は、孝恭は並せて之を籍沒す。稜は自ら訴理し、孝恭に<sup>さから</sup>忤い、孝恭は怒り、謀反を以て之を誅す。

■ 夏，四月，庚子（36-36+1=1日）朔，天下に赦す。

■ **〔新律令を頒つ〕** 是の日，新律令を頒ち，開皇の舊制に比して新格五十三條を増す。

■ **〔均田租庸調の法〕** 初めて均田租、庸、調の法を定める。丁、中之民には、田一頃を給し、篤疾は什之六を減じ、寡妻妾は七を減ず。皆な什之二を以て世業と為し、八を口分と為す。丁毎に歳に租粟二石を入れしむ。調は土地の宜しき所に隨い、綾、絹、緇、布とす。歳に役は二旬。役せざれば則ち其の傭を、日に三尺收める。事有り而して役を加える者は、旬有五日、其の調を免ず。三旬にして、租、調俱に免ず。水旱蟲霜が災いを為せば、什に四以上損すれば租を免じ、六以上を損すれば調を免じ、(11-120p) 七已上を損すれば課役俱に免ず。凡そ民の貨業は九等（上中下各々三等）に分け。百戸を里と為し、五里を郷と為し、四家を鄰と為し、四鄰を保と為し。城邑に在る者は坊と為し、田野なる者は村と為す。食祿之家は、民と利を争うを得る無し。工商雜類は、士伍に預る無し。男女は始めて生まれるを黄と為し、四歳を小と為し、十六を中と為し、二十を為丁と為し、六十を老と為す。歳ごとに計帳を造り、三年ごとに戸籍を造る。

■ **〔党項〕** 丁未（43-36+1=8日）、党項は松州を寇す。

■ 庚申（56-36+1=21日）、通事舍人の李鳳起は萬州（北魏は魚泉県を置き、北周は萬州に改める、隋は南浦と為し信州に属す。武徳元年に萬州南浦郡を分置す。四川省東川美智萬県、現・重慶市万州区）の反獠を撃ち、之を平らぐ。

■ **〔突厥〕** 五月，辛未（7-6+1=2日）、突厥は朔州を寇す。

■ 甲戌（10-7+1=4日）、羌は吐谷渾と同じく松州を寇す。益州行台の左僕射の竇軌を遣わして翼州（武徳元年に會州の左封・翼斜を分けて翼州臨翼郡を置く。四川省旧龍安府疊溪營の西）道より、扶州（西魏は吐谷渾を遂いて鄧州を置く。隋の開皇七年に扶州同昌郡に改める。甘肅省渭川道文県。唐の制では上州の刺史は従三品、中は正四品上、下は正四品下）刺史の蔣善合をして芳州道より之を撃たしむ。

■ 丙戌（22-7+1=16日）、仁智宮を宜君（宜州に属す県、陝西省榆林道宜君県西南、現・銅川市宜君県）に作る。

■ 丁亥（23-7+1=17日）、竇軌は反獠を方山に破り、二萬餘口を俘とする。

令和6年5月29日 翻訳開始 11450文字

令和6年6月2日 翻訳終了 26231文字